

巻頭言

保健学科長

奥 田 紀久子

新型コロナウイルス感染症のパンデミックを経て、世界がようやく落ち着きを取り戻しつつあるかに見えた矢先、国際情勢は大きく揺らぎ、地政学的リスク、エネルギー問題、物価高騰など、私たちの暮らしを取り巻く環境は一層不確実性を増しています。先行きの見通しが立ちにくい時代にあって、人々が幸福に生き、自らの可能性を十分に発揮していくためには、健康が何より重要な基盤となります。健康は、単に疾病の有無にとどまらず、一人ひとりのウェルビーイングを支える、かけがえのない資源であるといえるでしょう。

保健学科は、保健・医療・福祉において多様化・高度化するニーズに対応できる有能な医療人の養成を目的として、平成13年に、医学部の一学科として設置されました。設立以来、看護学専攻では看護師、保健師、助産師、放射線技術科学専攻では診療放射線技師、検査技術科学専攻では臨床検査技師といった医療専門職の育成を行ってきました。また、平成18年には大学院が設置され、学部教育から修士課程、博士課程までの一貫した教育・研究体制が整備されました。さらに平成20年には養護教諭の養成が開始され、その後、大学院において、助産師や専門看護師、医学物理士など、より高度な医療専門職の養成にも取り組んでいます。

このように、本学科は、少子高齢社会と人生100年時代を見据え、人間尊重の倫理に立脚した高い使命感、専門的知識・技能、チームの一員としての協調性、そして研究的視点を備え、医療及び福祉の発展を支えることのできる人材の育成に力を注いできました。変化の激しい時代にこそ、医療専門職には、確かな専門性に加え、多様な価値観を理解し、他者と協働しながら課題に向き合う力が一層求められます。

保健学科のある蔵本キャンパスには、医学部のほかに歯学部、薬学部が併設されており、医療系学部が集結した恵まれた学修・研究環境が整って

います。学修や研究活動に加え、部活動や課外活動を通じた他学部の学生との様々な交流は、将来、チーム医療の一員として力を発揮するための貴重な基礎経験となります。また、異なる専門領域を学ぶ仲間と出会い、互いの視点に触れることは、これからの医療に不可欠な多職種連携の基盤を育むものでもあります。

さらに、本学は米国、フィンランド、フィリピンなどの大学と学術協定を結んでおり、語学留学や交換留学等を通じて、グローバルな視点から学びの幅を広げることも可能です。地域に根ざしながら世界に目を向ける姿勢は、保健・医療・福祉の課題が国境を越えて共有される今日において、ますます重要になっています。

保健学科では、ウェルビーイングの実現に寄与できる、人間性豊かで高度な専門性に加え、グローバルな視点と研究力を兼ね備えた医療専門職の育成を目指しています。蔵本キャンパスの充実した教育・研究資源を最大限に活用しながら、学生の皆様が主体的に、そして意欲的に深い学びを追求されることを心より期待しています。

目次

巻頭言	page: 1
特集	2
研究紹介	3
1. 看護技術の可視化を目指して	
2. TGF- β 活性化キナーゼ-1阻害による炎症性サイトカイン誘導性筋萎縮及び筋力低下の改善	
3. 陽子線治療における医学物理学研究について	
教務委員会だより	5
学生委員会だより	6
新任教員紹介	7
国家試験合格状況	8
インフォメーション	8

臨床と研究をつなぐ 社会人大学院生として

徳島大学病院
医療技術部 診療放射線技術部門
板 東 孝 典

私は、徳島大学 医学部保健学科 放射線技術科学専攻を卒業後、診療放射線技師として徳島大学病院に就職するとともに、大学院である保健科学研究科に社会人大学院生として進学しました。学部時代から特に興味を持って取り組んだ核医学分野の卒業研究を、大学院でさらに内容を発展させていきたいと考えたこと、今後臨床現場での活躍が期待される医学物理士認定の取得を目指したことが、大学院進学への動機となりました。

一方で、大学4年次の病院実習を通して臨床現場での診療放射線技師の業務に強い魅力を感じていた私は、臨床業務と大学院での研究に並行して取り組むことで、臨床で得た知識や経験を研究分野に活かし、逆に研究で得られた知見を臨床現場に還元することは大きなメリットであると考え、大学院進学と就職との両立を選びました。また、初任者として就労1年目の負担を考え長期履修制度を利用することで、3年間で修士課程を修了する計画にしました。1年目は職場環境に慣れることを優先しつつ講義単位の取得と研究計画を立案し、2年目は学会発表を経験しながら医学物理士の試験対策に着手し、3年目には研究の集大成である修士論文の作成と医学物理士の認定試験に取り組みました。

大学院は夕方以降に始まる講義が多く、平日は病院に勤務した後、18時頃からオンライン講義や研究室ミーティングに参加しました。医学物理学コースを選択した場合、必修の専門講義に加え、主に電磁気学や量子力学をテーマにした「医用物理学特論」の講義と「がんプロフェッショナル養成プラン」のeラーニング講義により単位を取得する必要があります。学部では学べないような高度な基礎物理学の理解をより深められ、医学物理士に必要とされるがんの医学的基礎知識に関して広く学ぶことができるため、大変勉強になったと感じています。研究室ミーティングでは指導教員の先生方や研究室メンバーに進捗報告をしたり、

学部学生の卒業研究指導にも関わったりしながら、限られた時間の中で有意義に取り組みました。大学院では学会発表の機会や英語論文の執筆など、研究者として必要なスキルを実践的に身につけることができました。また、指導教員や研究室メンバー、臨床現場スタッフのサポートも学部時代から継続して受けることができる恵まれた環境の中、先生方の勧めもあって医学物理士試験の合格を目指すことにしました。

医学物理士試験は学部時代に取得した「第1種放射線取扱主任者試験」と「診療放射線技師国家試験」を基盤として、やや発展させた問題が多く出題されています。放射線物理や生物のような基礎系科目を復習し、過去問等から出題傾向をつかみ、特に苦手分野を中心に強化しながら試験対策を進めることで、初めての受験で無事合格することができました。

医学物理士は放射線治療領域における治療計画や品質管理等で活躍されているイメージが強いですが、近年、新薬による核医学内用療法も増加しており、将来的には、核医学分野を含めた幅広いモダリティで必要とされる可能性があると考えています。現在、国外に比べると日本では核医学分野での医学物理士は珍しいですが、将来的には核医学専門認定技師の資格取得と併せて核医学分野で医学物理士として活躍していきたいと思います。

大学院へ進学し、研究と資格取得を計画的に進めていくことは大変ですが、興味のある分野を深く追究できる貴重な機会です。特に私のような社会人大学院生は、臨床と研究を融合させながら医療技術の発展に寄与することができる点に大きな価値があります。自身の将来像を見据えたうえで、大学院進学という選択肢もぜひ前向きに検討してみてください。



乳がんサバイバーに忍び寄る心血管イベント

がん看護学分野
今井 芳枝

わが国では、乳がんは女性の部位別がん罹患患者数で第1位であり、5年相対生存率は92.3%と高く、サバイバーが多い疾患です。また、年齢階級別罹患率では20代後半より上昇して40～60代での罹患率が高いため、治療を完遂した後、家庭や仕事に復帰して生活を望める疾患でもあります。この乳がんの治癒に貢献している薬剤の一つのアドリアマイシン（以下ADM）は、蓄積量が大量になると心不全の発生が危惧されている薬剤でもあります。そのため、ADM療法を受けた患者に対する心機能モニターや総投与量の確認など、心毒性に対する対策がとられています。一方で、レトロスペクティブ解析において、心毒性の発症リスクは年齢、心臓を含めた放射線治療歴、ノルバデクスの使用や心疾患の既往によりさらに上昇するとし、従来の推奨用量より低いレベルでの心不全発症の可能性を提示している報告もあります。加えて、転移性乳癌に多く使用されるようになったトラス

ツズマブは従来の抗癌薬とは作用機序が異なる分子標的抗腫瘍薬になりますが、トラスツズマブもドキソルビシンと同様に心障害をきたすことが警告されている（嶋田，2010；岡田，2010）薬剤です。乳がん治療は多数の薬剤を複雑に組み合わせで実施する治療であり、薬剤の重複で心毒性が発現することも報告されています。特に、薬剤性心障害にはうっ血性心不全、虚血、不整脈、伝導障害、心膜炎などがあり、いったん発症すると不可逆性で進行性であることが多く、致死転帰をたどることも報告されています。この報告からも、乳がんを克服した女性の多くは、乳がんとは異なる原因で死亡しており、乳がんの診断および治療後の女性の長期ケアにおいては、心血管疾患のリスク低減に重点を置くべきであることが主張されています。

本学のがん看護論の講義は選択科目ですが、令和9年より必修科目に変更予定です。上記のような学会で得られる最近のトピックスも交えて講義を展開しておりますので、是非、がん看護の講義で最新のがん医療を語れる医療人になってください。

研究紹介

1. 看護技術の可視化を目指して

看護技術学分野
飯 藤 大 和

卓越した技術を有する看護師の行うケアは、患者の安全性と安楽性が考慮されており、ケアに対する満足度にも影響を与えます。看護の教科書では一般的な手技や手順は紹介されていますが、うまくケアを提供する“コツ”について具体的に記載することは難しいようです。このような背景には、熟練した看護師の看護技術には暗黙知が存在していると考えています。そこで私の研究では看護技術の暗黙知を形式知にすべく、熟練者の看護技術の可視化を進めています。具体的には視線解析装置や簡易版の脳血流量の測定機器を用いて、

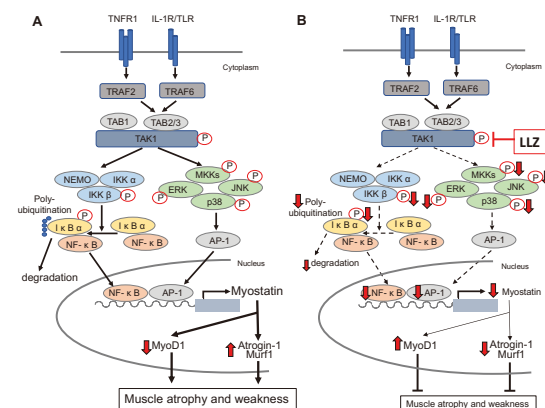
熟練看護師がケアを提供しているときの看護師側からの視線や脳活動の変化を数値化し、学生や経験の少ない看護師と比較考察しています。このような準実験研究の手法を行うには機器の準備や同一の状況設定を確保することなど、他の要因からの影響を最小限にする必要があります。そのため、1症例のデータを収集することも容易ではありません。しかし、看護ケアを提供する時の看護師の動作の意味を視線や脳血流を用いて客観的に評価できることに大変魅力を感じています。まだ症例は少ないですが、様々なケアの場面について実験を行うことで、熟練した看護師のケア提供時の特徴を明確にし、今後の看護技術教育に生かすことができるようにしたいと考えています。

2. TGF- β 活性化キナーゼ-1阻害による炎症性サイトカイン誘導性筋萎縮及び筋力低下の改善

検査技術科学専攻
金井麻衣

急速に高齢化が進行するわが国において、高齢者のQOLや生命予後の悪化に深く関わるサルコペニアの予防・治療法の確立は喫緊の課題です。サルコペニアは筋量と筋力の進行性かつ全身性の減少に特徴付けられる症候群で、身体機能障害やQOL低下に加え死亡リスクをも伴います。現在、70歳以上の高齢者の7-8%がサルコペニアに該当すると推定されており、急速な高齢化の進行に伴いさらに増加すると予想されます。我々は、サルコペニアの惹起・増悪に加齢に伴う慢性炎症が重要な役割を担うことに着目し、炎症性サイトカインシグナルがサルコペニアをもたらす機序の解明とともに、新たな治療法開発を目指しています。具体的には、複数のサイトカインシグナル伝達において枢軸的役割を果たすTGF-beta activated

kinase 1 (TAK1) シグナルがサルコペニアの増悪・進行に果たす役割を解明するとともに、TAK1阻害がサルコペニアの病態形成や進行を抑制する可否かを培養筋芽細胞様細胞や動物モデルを用いて検討しています。(図)



これらを通じ健康寿命の延伸に寄与出来る新たなサルコペニア治療法の開発を目指しています。

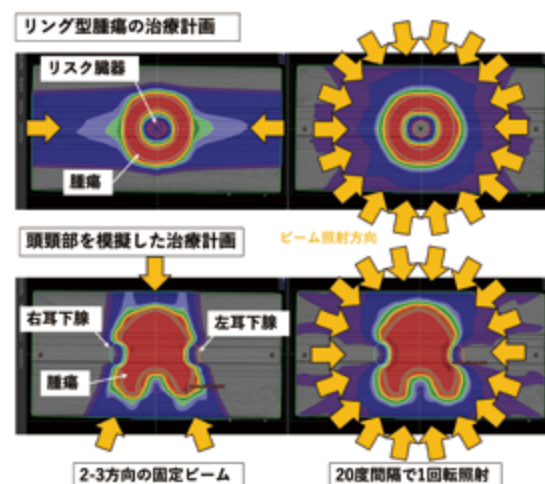
3. 陽子線治療における医学物理学研究について

放射線技術科学専攻
富永裕樹

陽子線治療における医学物理学研究は、最先端の放射線治療を支える重要な分野です。医学物理士は、医師と連携しながら安全で効果的ながん治療を実現するために、医学物理学的視点から助言を行う専門家であり、主に研究・臨床・教育の3つの役割を担っています。本研究室では、特に呼吸などで動く腫瘍に対して動的な陽子線ビームが体内に投与された場合の線量を正確に可視化する4次元線量分布評価ツールを用いて、治療中に生じる線量変化を予測・可視化する技術の開発に取り組んでいます。これにより、従来の治療計画技術では捉えきれなかった実際の線量分布をより正確に評価することが可能となります。

さらに、回転強度変調陽子線治療などの世界最先端の照射技術(図)や、辺縁線量処方を用いて腫瘍内部の線量を高める定位陽子線治療法の研究開発を進め、より高精度で効果的な治療の実現に

よる臨床へのフィードバックを目指しています。また、Pythonを用いて専用プログラムやAI(深層学習)モデルを開発し、治療計画の自動化や線量分布の予測などの研究も積極的に行なっており、医療の効率化と高度化にも貢献しています。これらの研究は、患者さんへの負担を軽減しつつ治療効果を最大化することに直結し、将来的には個々の患者に最適化された個別化医療の実現にもつながっていくと期待しています。



教務委員会だより

教務委員長
今 井 芳 枝

●学修に関する調査と改善

教育改善を目的として、徳島大学「第10回学生の学修に関する実態調査」を昨年（令和7年）末、1年次と3年次学生を対象に実施し、冊子「ラーニングライフ」として報告書にまとめる作業を行っています。以下、保健学科学生に対する調査結果の一部を紹介します。3年次学生の回答では、将来の見通しを持って学修に取り組む学生の割合は学科全体で65～70%に達しており、段階的な学修設計支援の有効性が示されていました。

○看護学専攻では、令和7年の看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂を踏まえ、コンピテンシー基盤型教育への転換に向けて令和9年度入学生からの新カリキュラム導入に向けた検討を組織的に進めています。それに合わせて、選択科目から必修科目が増加します。また、学生の知識到達度を把握する手段としてCBT導入され、各論実習前に行います。CBT受験結果は、今後のカリキュラム設計および教育改善の基礎資料として活用する予定です。

○放射線技術科学専攻では、予防医療や検診業務への対応力強化を目的として、令和8年度から臨床実習に検診を主業務とする実習施設を新た

に追加しています。また、VRを活用した臨床シミュレーション教育を導入し、胸部X線撮影に関するポジショニングおよび撮影条件設定の反復学修を実施しています。評価の結果によると、初回実施時には75～80%であった適切率が、反復学修後には全学生（36名）で100%に到達するなど、実践的技能の向上が確認されています。これらの取組により、臨床現場および検診業務に対応可能な診療放射線技師の育成を図っています。

○検査技術科学専攻では、社会との接点を重視した段階的な人材育成を推進しています。中学生を対象とした職場体験学習の受入れに加え、在学生については徳島県医学検査学会において4年生全員が口頭発表を行う機会を設けています。さらに、1～3年生の学会参加率は72%に達しており、卒業研究内容を早期に理解する機会として、学修意欲や研究への関心の向上に寄与しています。

完成した報告書の全内容は、徳島大学ウェブページ「学生の学修に関する実態調査」(https://www.tokushima-u.ac.jp/campus/life_survey/gakushujittaichosa/) から閲覧できます。



学生委員会だより

保健学科学生と学科長との懇談会

学生委員長

森 田 明 典

日ごとに暑さのつる頃、くれぐれも体調にはご注意ください。新年度は環境に適応するだけでも大変で特にストレスが蓄積しやすい時期です。上手に気分転換できるようご自身に合ったストレス解消法で元気に乗り切りましょう。学生委員会は、みなさんの学生生活を円滑にするための支援組織です。今回は保健学科学生委員会独自の取り組みとして、「保健学科学生と学科長との懇談会」について紹介したいと思います。

これはコロナ禍における教員と学生間のコミュニケーション不足を解消するために企画され、保健学科学生委員会が2019年度より継続して開催している取り組みです。基本的な参加者は、学生代表として各専攻・各学年の総代・副総代、保健学科担当教職員として学科長のほか、各専攻の主任、学生委員や教務委員、学務課職員が参加して大学生活の改善を図るための懇談の場です。例年秋に開催されますので、学生のみなさんは、要改善事項がないか本学の環境を見渡していただき、改善

を求めたいことがあれば総代・副総代の方にいつでもお知らせください。改善要求の結果、施設の改修や機器の設置、大学本部への要望等、具体的な対策が実現した件も多数あります。

この懇談会は今後も続けて行きたいと考えておりますが、近年、保健学科学生のみなさんからの要望件数が減少しています。3年間の推移では、2023年度21件、2024年度11件、2025年度8件と減少の一途を辿っています。みなさんの要望が実現し、環境整備が整った結果、要望が減少したと前向きに捉えることもできますが、仮に要望がゼロとなった場合は開催見送りを検討せざるを得ない事態となり、保健学科学生と教員の架け橋となる意見交換の場が1つ失われることとなります。学生生活充実のための方策について学生のみなさんの要望を募る唯一の機会ですので、私たちはこの懇談会を引き続き活用いただくことを願っています。総代・副総代の各位におかれましても常日頃より要望収集に努めていただくようお願いいたします。



新任教員紹介



看護学専攻
助産学分野
教授

木戸 久美子
KIDO Kumiko

令和8年4月1日付で、助産学分野の教授を拝命いたしました。私は平成2年に徳島大学医学部附属助産婦学校を卒業いたしました。その後、郷里である山口県において助産師として勤務したのち、助産学および母性看護学領域の教育・研究に従事してまいりました。徳島大学における伝統ある助産師養成の歩みを受け継ぎ、グローバルに活躍できる助産師の輩出と助産学分野のさらなる発展に寄与できるよう尽力してまいります。今後とも、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



看護学専攻
ウイメンズヘルス支援学分野
講師

森内 洋美
MORIUCHI Hiromi

令和7年4月1日付で、ウイメンズヘルス支援学分野の講師を拝命いたしました。平成元年に徳島大学医学部附属助産婦学校を卒業し、助産師として臨床経験を経て、徳島大学病院（周産母子センター、小児医療センター、総合臨床研究センター）で看護師長を15年間勤め、計35年の臨床経験ののち教員となりました。看護を教育として伝える中で、これまでの臨床経験を活かし、未来を担う学生にとって母性看護の学びが今後のライフコースへの糧にもなるよう育成するとともに、研究・教育を通じてウイメンズヘルス支援学分野ならびに大学の発展に貢献できるよう努めてまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。



放射線技術科学専攻
医用画像物理学分野
講師

富永 裕樹
TOMINAGA Yuki

令和7年10月1日付で医用画像物理学分野の講師を拝命いたしました。私は平成26年より民間病院で陽子線治療やX線治療の立ち上げ、臨床、研究開発などに携わってきました。今後は、保健学科において放射線治療や医学物理を専門とする人材育成を積極的に行っていきます。また、米国との医学物理学研究の連携・相互人材交流を積極的に行っていきたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



放射線技術科学専攻
画像医学・核医学分野
助教

大谷 環樹
OTANI Tamaki

令和8年3月1日付けで画像医学・核医学分野の助教を拝命いたしました。以前は放射線総合センターにて、放射線の安全管理や教育に従事するとともに、診療放射線技師として臨床核医学にも携わってまいりました。何事にも向上心を持ち、教育・研究活動に邁進できればと考えております。今後ともよろしくお願い致します。



看護学専攻
ウイメンズヘルス支援学分野
助教

高野 みち子
KOUNO Michiko

令和8年4月1日付けで、ウイメンズヘルス支援学分野の助教として着任いたしました。これまで助産師として11年間の臨床経験を積み、その後は看護師・助産師養成所や大学において看護基礎教育・助産学教育に携わって参りました。今後は、これまでの経験を生かし、ウイメンズヘルス支援学分野における研究・教育に取り組んでいきたいと考えております。学生の皆さんと共に学び、成長できるよう努めて参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。



看護リカレント教育センター
特任助教

中村 由香
NAKAMURA Yuka

令和8年4月1日付で看護リカレント教育センターの特任助教を拝命いたしました。私は、徳島大学の学部・大学院にて学び、徳島市医師会の訪問看護師として従事しながら、聖路加国際大学認定看護師教育課程を修了いたしました。その後、認知症看護認定看護師として徳島県立海部病院でも勤務しておりました。また、認知症に関するまちづくり事業にも参加し、地域活動も行っております。これまでの経験を生かしながらかレント教育と地域貢献に尽力してまいります。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。



看護学専攻
がん看護学分野
助教

明石 和子
AKASHI Kazuko

令和8年5月1日付けでがん看護学分野助教を拝命致しました。

私は看護師免許取得後、緩和ケア認定看護師資格を取得し、2024年に徳島大学大学院博士前期課程を修了、がん看護専門看護師資格を取得しました。18年間の臨床経験を基盤に、がん看護と緩和ケアを融合させた研究・教育に取り組み、実践に結びつく教育に貢献してまいりたいと考えております。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

国家試験合格状況

国家試験	看護師	保健師	助産師	診療放射線技師	臨床検査技師
徳島大学	100%	89.7%	100%	85.0%	94.4%
全国	94.1%	89.9%	99.8%	83.8%	93.9%

注1) 表中の数値は合格率を示しています。

2) 徳島大学の合格率は令和7年度卒業生・修了生を対象としています。

インフォメーション

●3年次編入学試験 令和8年8月27日(木)実施

保健学科3年次編入生についての募集要項等の詳細については、以下までお問い合わせください。

〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18-15
徳島大学蔵本事務部医学部学務課第二教務係
Tel 088-633-9009

入学試験の最新情報は



<https://www.tokushima-u.ac.jp/med/admission/>

をご覧ください。

徳島大学医学部保健学科だより 第26号
令和8年7月発行

発行：徳島大学医学部保健学科
編集：広報委員会 今井 芳枝, 大塚 秀樹,
片岡 佳子, 千葉 進一, 成澤 裕子, 笠井 亮佑

保健学科だよりへのご意見・ご要望は、以下までお願いします。

〒770-8503
徳島市蔵本町3丁目18-15
徳島大学蔵本事務部医学部総務課総務係
電子メールアドレス：isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp
URL：https://www.tokushima-u.ac.jp/med/health_science/